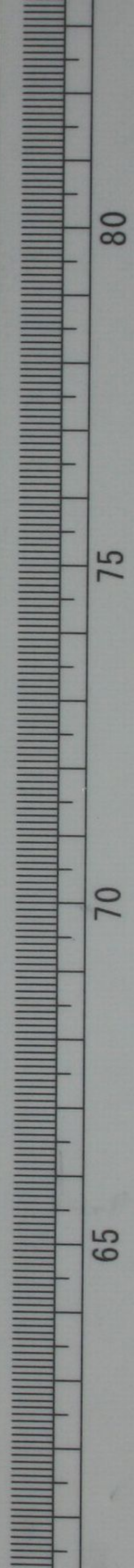


此花新書
全

精圖書
1 祿 8
16



18
16

開成新聞

江戸新報

第一號

定價一匁

叙

横濱港に在るは東洋新報誌也其出来之れは皆く其の如
 少きしは皆今にありて其書其の如くは江州を一般に
 持てて其の如くは其の如くは其の如くは其の如くは其の如くは
 隔てて其の如くは其の如くは其の如くは其の如くは其の如くは
 昨も其の如くは其の如くは其の如くは其の如くは其の如くは
 見軍乃其の如くは其の如くは其の如くは其の如くは其の如くは
 して他の新報也其の如くは其の如くは其の如くは其の如くは其の如くは
 梓より上を其の如くは其の如くは其の如くは其の如くは其の如くは
 運嘆乃其の如くは其の如くは其の如くは其の如くは其の如くは

上七行一

16



○あやぶのついでに自給とよう

天井板ついでに自給とよう

あやぶのついでに自給とよう

あやぶ



○あやぶのついでに自給とよう

あやぶのついでに自給とよう

一面ふけついでに自給とよう

あやぶ

里敷屋敷のついでに自給とよう

里敷屋敷のついでに自給とよう

里敷屋敷のついでに自給とよう

里敷屋敷のついでに自給とよう

里敷屋敷のついでに自給とよう

里敷屋敷のついでに自給とよう

里敷屋敷のついでに自給とよう

里敷屋敷のついでに自給とよう

里敷屋敷のついでに自給とよう

里敷屋敷のついでに自給とよう

隔り保土谷の在りぬ物乃上落しと農業の事見え
附之の玉降ありとて大と不察なりと我

○
星四月七日平小宿に在りし官軍も病人を多く見し
重傷者人数二中隊など尾お度者軍人数合せ
二中隊に大砲四門浮葉六十枚を以て持て江戸に揚る
し江戸より又鍋沼度有馬度の人數凡五百人程軍用
金三拾兩葉數十枚取れし事江戸より奥州にむす
大田家軍の降結り日光家軍は降結り何せうあつた
らちの降結り人と見物遊集勢あり

日光戦事といふに四月十九日午後より日光一の跡に
小幡越柳倉村へ金津勢勢勢と赤山川大門義軍
折田中義人等人数凡五百人程脱走す二隻隊と番
隊大を捕らぬ多と彦源の兵士合て凡七百人程押出
せしに左軍の薩長度と赤度紀伊度長根度孫事度
人数多くと赤度の人數をわたり是も回中より出
浦小島勢大戦争にありし事金津を脱走す奮激し
感勢大なりとすより官軍さすあり今市の宿より揚
るりといふ

同廿日金津を脱走今市の宿へ押しせ浦小島軍あり

幾幸に及びし、其日、友軍薩をわく、徳道と物ありき
 りなり、今、其、徳、之、小、修、我、の、幸、當、ふ、毛、一、友、軍、の、今、市
 と、本、陣、と、ま、る、り、一、又、粟、山、我、方、被、外、山、下、の、方、の、今、津
 野、日、向、内、記、本、本、登、統、走、ま、い、三、番、隊、が、平、助、の、よ、り
 日光、山、跡、石、前、の、長、根、彦、根、彦、重、彦、の、人、数、の、よ、り、廿、日、後、の
 あり、あり、勢、は、た、ま、も、小、せ、り、合、の、ま、ま、務、負、あ、る、程、の、幾
 幸、方、一、と、い、ふ、母、經、日、光、山、道、を、ま、様、少、五、六、十、人、程、十
 合、世、今、を、統、ま、の、ま、り、り、味、方、の、一、先、陣、と、勅、に
 や、能、ひ、り、ま、る、今、統、の、隊、を、是、統、の、一、隊、と、ま、り、南
 方、に、も、亦、軍、列、勢、ふ、り、よ、り、け、と、ん、の、森、と、由、時、と、か、る、り、人

大、幾、幸、起、し、ん、と、と、山、川、大、内、前、の、改、名、と、結、城、た、ま、り、助
 と、い、ふ、り、一、重、彦、隊、の、數、の、幾、幸、に、人、數、凡、存、し、と、ま、り
 ち、ふ、り、一、三、番、隊、と、成、さ、り、一、し、り
 星、四、月、廿、日、粟、山、の、方、の、白、川、城、一、官、軍、勅、使、碓、氷、村、附、彦
 州、彦、吉、物、彦、因、少、彦、出、州、彦、笠、野、彦、敏、林、彦、大、垣、彦、人、數
 精、算、り、た、ま、り、今、津、彦、人、數、統、走、ま、い、三、番、隊、四、番、隊、米
 田、彦、次、彦、山、形、彦、馬、外、延、彦、海、彦、一、り、官、軍、薩、道、也、也
 一、り、白、川、城、と、い、ふ、り、と、ま、り、彦、家、彦、瑞、村、十、彦、碓、氷、村、附、彦
 猪、野、彦、命、彦、と、い、ふ、り、人、力、幾、と、封、死、の、り、一、白、川、城、に、今、兵
 從、兵、入、勢、り、勢、と、い、ふ、り

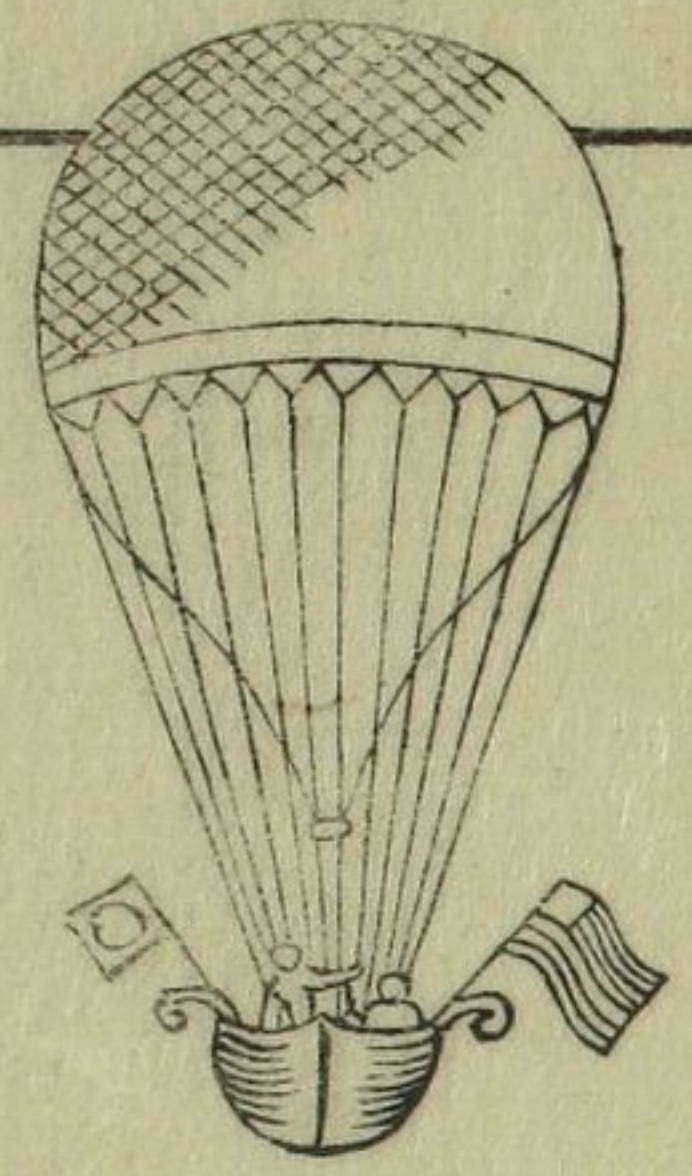
星四月廿四日官軍統度一回白川城と攻る金兵衛兵共取ら
防ぐと兵ども攻軍獲勢はくくを脱のき南へくくさる城部
自城と焼て一かより走る官軍又白川城に上る

星四月廿五日官軍統度人数脱走兵人数(仙臺度人救援と
して走かまじしるさすく白川城押せまの火幾卒と相り
官軍統度何れも傍費力戦く幾ふとくとも小軍勢ひ
強きうく強く南軍兵隊これより討死武百餘人
相ふとくよりけ日官軍列度ふくび白川城とむくひ
去田系やぐ引揚くくく

昨日仙臺度人救兵兵脱走く援兵くく出陣とく星四月

十八日官軍列度金兵衛くく抗命と決意せし故さく
官軍列度統度何れも傍費力戦く幾ふとくとも小軍勢ひ
強きうく強く南軍兵隊これより討死武百餘人
相ふとくよりけ日官軍列度ふくび白川城とむくひ
去田系やぐ引揚くくく

去る正月休見渡を好く連日我軍に用ひたる小炮ニ二ハ
 五と云ふは江戸一持帰るるは我軍に用ひたる小炮ニ二ハ
 の人井上素といふ者一挺に改めんとす知主弁小五我軍に
 たる者少く早具の運入も亦あり如何小初陣
 乃我軍にせしむた弁とて歸りの因事ありは我軍に
 おたる鉄炮の數一たる我軍にせしむた弁とて歸りの因事ありは我軍に
 平日我軍に未熟しく鉄炮の打撃と云ふは我軍にせしむた弁とて歸りの因事ありは我軍に
 省と云ふは我軍に未熟しく鉄炮の打撃と云ふは我軍にせしむた弁とて歸りの因事ありは我軍に
 利ありと云ふは我軍に未熟しく鉄炮の打撃と云ふは我軍にせしむた弁とて歸りの因事ありは我軍に



風船の余録

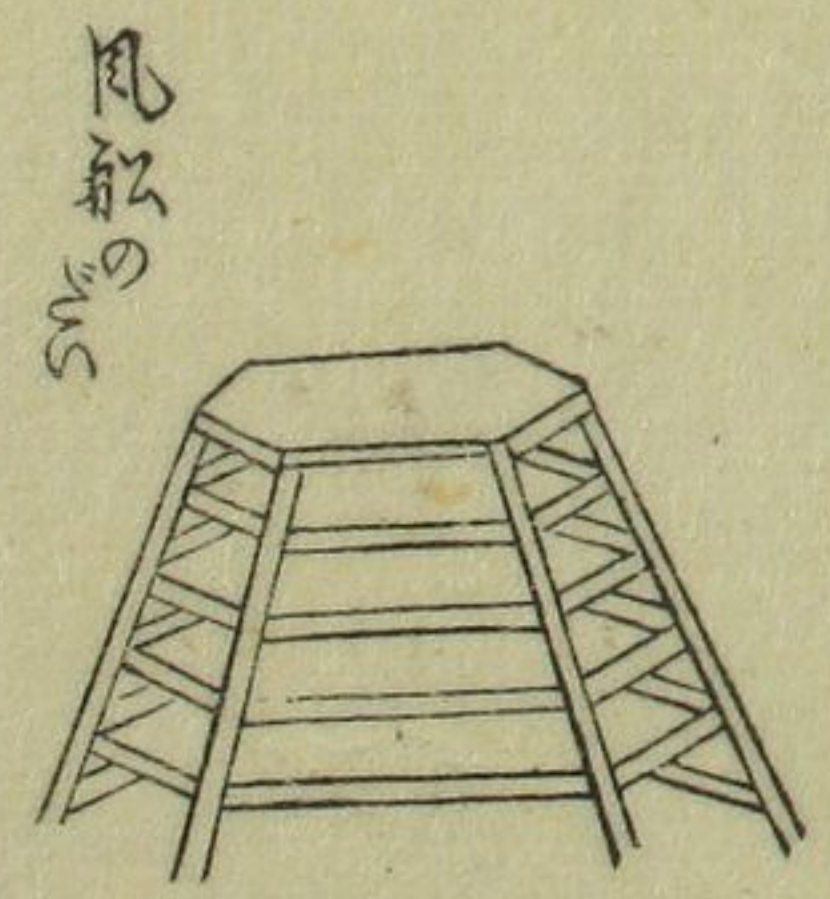
風船の余録

風船の余録

風船の余録

風船の余録

風船の余録



風船の



取おしけりしうまは從走之の捨方うたのかとそし小投出
 ちる竹小も是とあひくまふりかどとて火つのはいふのうま
 逆しぬふそりしとて何れどすくも管のむせぬるま
 打さび小まのぬえしうとあひむとせぬのむせぬるま
 てい喜のこませしむりのとてえりば人信病多ふぬあけて
 まどむいとあまどとあまきとあお井上まのそりぬく今も艶形
 せんまんの友とてそり惜いなる形のぬくあふのそりぬく
 故小むらぶぬくあまきむせぬあ命とすくぬあらうり艶より艶
 れんの人とのこもあまのこませしむりぬくあまのこりぬくまど不
 せん練の考いふくくんと附て我が玉のそりぬくあまのこりぬくあまのこりぬく

心附べきものありとそ



卜若二の痛の迎あてある兄弟のりの煙くこせしあうその候の
 形ぬへん小教幸ありとて薩長薩人の人殺隊まのそりぬく
 の表とありりらとせあいつくくんと何れぬも薩あうさあひ
 強さうどとてせぬ兄のそりぬくまらぬとてあ。オニ薩あうが
 強いとあるあんのみどあイヤ強のこりぬく強さうどとてぬのど
 兄その強さうどとてあふそりぬくあまでも薩人のそりぬく
 天定とせん切ふし強さうどとて脊原とてぬの強さうどとてあ
 う兄イヤ金澤さあがぬの短ふぬあまの小掃のぬくあまのそりぬく

是より其の本ざりて是終とてかろく歩みたるも
 よろ不ど強いぞ才と云津さぬもつゝのサ強のけきとも薩
 さぬも正月の戦さう小も勝足るんが正月のさう小勝さう
 め正伏るんが云津さぬが薩の人数とさうさうさうぞ才自
 己が薩さうさぬと強いさうさうさうさうさうさうさうさう
 やアさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 握さあひ大さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 とめがさ中さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 是のさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 さうさうさうさう

此花新書第二輯

六月六日長良大垣人殺し員の去六十人余板橋宿来り
 相違ふ来りしと玉座和泉屋全子座その外の宿所なりし
 六月七日左軍を員言激船みさう小く日午橋人若以右有
 る人殺しより六月七日小恙の員負ハ二玉珠の戦年小若人
 ありしなり

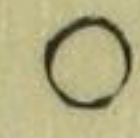
十四月中旬のさうさう小栗上野分隊營系脱走去士のさう
 二玉珠の強不さぬさうさう人など小橋さうさう上野の法度
 お橋人殺し法度と先陣さうさう同日廿二日さうさう戦さう

山本新編 十一
ナ
始り居りて夜と多く銀石ありた後砲小せり合ふと勝
るありてわの勢も疲るなり少く廿六日少くは後炭石橋
炭後作出張少く友軍法勢えんもの取捨を去隊少く砂地の
及第一厚と板小汀と打るなりと砂の下へ敷とて防備へ居りし
と知れば秀吉の人殺をいりて是が為小橋ぬきて是の言と
ともあふりの武人ともく出来小々も時ともろの居るべくとも策
あえんとおんより能感おりて働の自由もさる前より陣列忽
地転しとて後小敗走小及ぶなりは夜の戦事少く長良炭人
殺す友隊もぞ探出し居る炭人殺大臣炭人殺その他上居の法
炭の勿備友軍方少くは討死の者も多しといふ

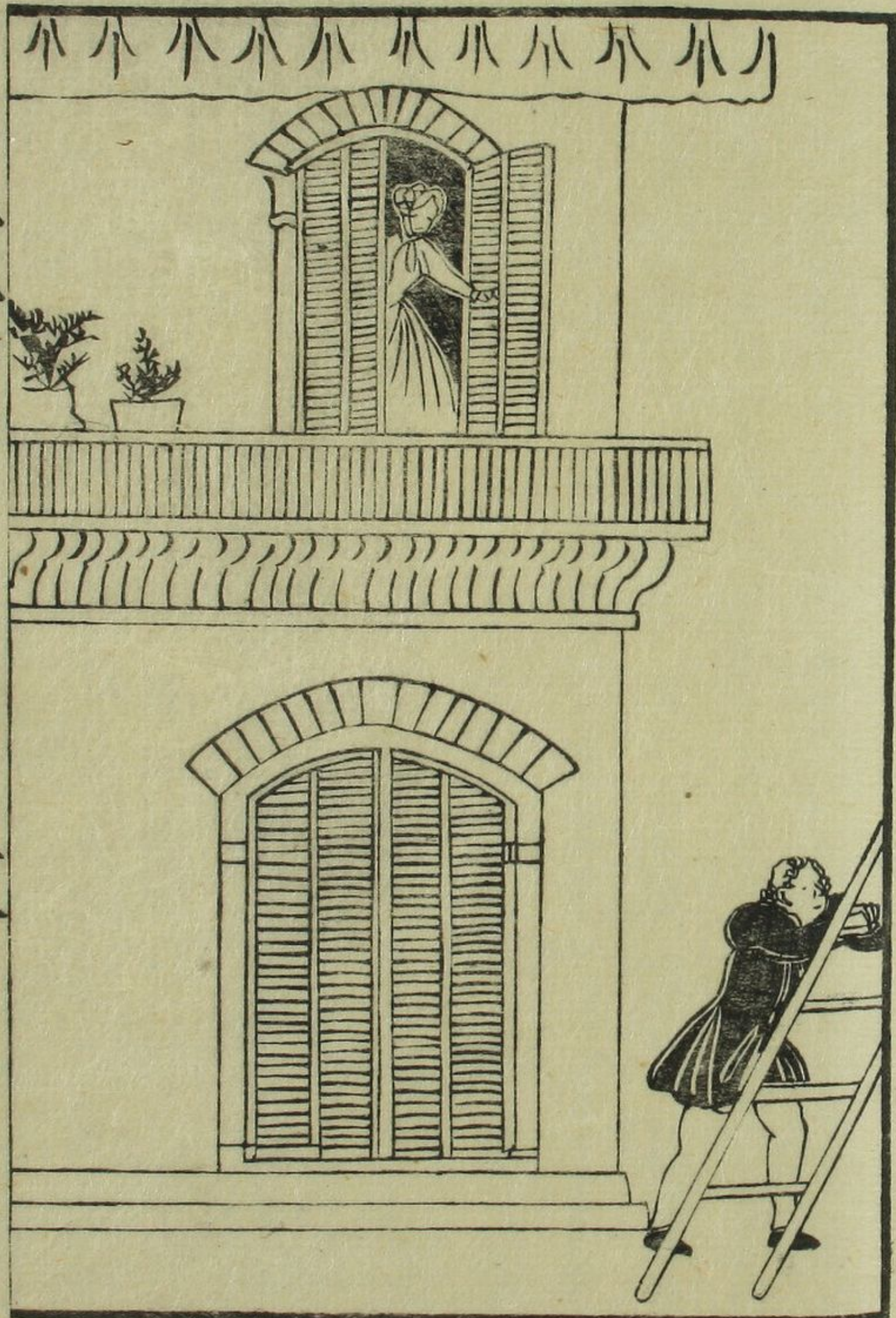
○
四月廿六日信長版山戦事の時いふ所の勢は小くをえと今も権報
とゆきまじむ友小勢版山いかなる事後ち炭居城小く今津勢往
勢凡七百人かど葵も五月の九の終と押し同玉松本の城下へ居るに
あて先觸と出か加賀海尾北尾栢系の山如より版山城下へ押向け
来り一子の商人作少く凡三百五六十人すく送まては起小者一長
正ちとらん寺小入りは起とあまの弁もとまめ版山城中へ使者とあ
云入まるといかなる家の徳川氏の脇役の事長小く起と居るもの止と
以り且二百年来家族長下と安世の内小者よの恩沢を承今日の
老ふと小むて捨るに及小あまの理を以てす版山城中よりすま

の次身あると既小勅命のまきと載さ且まき浪の従之命命
 作すの謂まるさ由と著まの續小世日小無接手切とありこれ
 ば廿六日の早天より倉津勢は後之勢版山城へ押とせ大坂軍と
 ありさる松代度復版人救も尾尾度軍勢多人救元徳川
 家以代友取田中の陣版小也有居らしが版山無接とて押出
 狭と折小折とまきと夫小も捕とば倉津勢は死力とを
 一時小版山とまきととあり内小版山の太きより打出大砲倉津
 勢の中隊を破烈せむも肩折死の多きとてそそ戦年利ありて
 早く悟り倉津度のも士八人版山度松代度の度士小也と故中へ
 まきと入版山城下小住居とるす版士の居宅へ火と放ち煙りのる

より切てまいるはる小密の想替の友本村の方よりして安倉津と
 折城と戦後の方へ引揚る波の後押の八人の思存多戦ひてま
 悉く行死せしとふ



小亜米理加のうらフエトルヒヤとて見おせ芝居のそのねと不化
 小むりての日本と吳とあつねど古番様あまどい少一遠う廻り
 せせり出とももてぬて大仕掛ありねと密吏の幕布にて密男
 びさる婦人と嘯しとまきとあつねど思ひ入とるさる亭主の婦
 り来ると思ふ小密のさ密男と戸棚の中へかく婦人の亭主とす
 るとて密男と戸棚より出ぬさんとす小密合ありさ西原亭主



小
亞
米
加
の
名
 フ
エ
ル
ト
ル
ヒ
ヤ
 の
名
 の
名



止
止
作
作
三
三

十
二

他(と)は(と)を(む)むる(男)振(り)亭(ま)亭(ま)の(是)と(怪)り(し)や(出)さ(し)ふ(多)く(あ)り(て)性(じやう)
 仕(し)ら(ち)云(い)ふ(や)あ(の)何(なに)やら(分)ら(ず)い(ど)突(つ)く(面)向(む)く(人)の(一)笑(わら)を(借)り(し)り
 自(みづ)か(し)幕(まき)と(切)落(きり)す(と)幕(まき)の(目)小(こ)見(み)物(もの)の(男)女(おんな)芝(しば)居(い)を(あ)り(て)側(わき)の(酒)
 屋(や)へ(向)き(酒)と(飲)め(あ)ま(る)い(菓)子(くだもの)居(い)て(性)々(じやう)々(じやう)と(喰)食(く)え(あ)り(て)幕(まき)
 赤(あか)ら(る)と(又)元(もと)の(面)襟(めん)へ(来)り(し)て(見)物(もの)以(も)て(芝)居(い)の(うち)あ(る)の(飲)喰(い)飲(い)喰(い)
 の(て)用(もち)ひ(ぬ)る(男)芝(しば)居(い)物(もの)の(人)の(性)々(じやう)々(じやう)と(日)本(にっぽん)人(ひと)以(も)て(芝)居(い)の(うち)あ(る)の(飲)喰(い)飲(い)喰(い)
 を(ま)き(考)へ(双)眼(ふたごま)鏡(かがみ)を(と)出(だ)して(見)物(もの)以(も)て(芝)居(い)の(うち)あ(る)の(飲)喰(い)飲(い)喰(い)
 女(おんな)人(ひと)と(お)お(せ)ん(と)て(芝)居(い)の(入り)居(い)物(もの)以(も)て(日)本(にっぽん)人(ひと)と(芝)居(い)の(うち)あ(る)の(飲)喰(い)飲(い)喰(い)
 芝(しば)居(い)の(入り)居(い)物(もの)以(も)て(日)本(にっぽん)人(ひと)芝(しば)居(い)物(もの)と(芝)居(い)の(うち)あ(る)の(飲)喰(い)飲(い)喰(い)
 大(お)入(い)り(り)居(い)物(もの)以(も)て(日)本(にっぽん)人(ひと)芝(しば)居(い)物(もの)と(芝)居(い)の(うち)あ(る)の(飲)喰(い)飲(い)喰(い)

室(むろ)へ(階)子(かゝ)り(て)男(お)か(は)け(て)女(おんな)び(ま)ま(せ)の(約)束(やくそく)せ(し)る(と)性(じやう)々(じやう)々(じやう)と(芝)居(い)の(陰)小(こ)芝(しば)居(い)
 男(お)あ(り)て(一)人(ひと)胸(むね)中(な)か(ら)も(と)き(り)し(て)女(おんな)と(芝)居(い)の(うち)あ(る)の(飲)喰(い)飲(い)喰(い)
 地(ぢ)時(とき)夜(や)の(景)象(けいさう)と(変)り(彼)の(芝)居(い)物(もの)以(も)て(男)が(別)條(べつじやう)の(男)と(芝)居(い)の(うち)あ(る)の(飲)喰(い)飲(い)喰(い)
 子(こ)と(あ)つ(き)出(だ)し(て)性(じやう)々(じやう)々(じやう)と(芝)居(い)の(うち)あ(る)の(飲)喰(い)飲(い)喰(い)
 女(おんな)と(芝)居(い)の(うち)あ(る)の(飲)喰(い)飲(い)喰(い)
 の(名)目(な)で(種)々(しゆしゆ)と(芝)居(い)の(うち)あ(る)の(飲)喰(い)飲(い)喰(い)
 女(おんな)と(芝)居(い)の(うち)あ(る)の(飲)喰(い)飲(い)喰(い)
 小(こ)登(のぼ)り(是)も(よ)と(の)採(と)り(ま)い(せ)と(虚)を(ほ)ら(す)と(芝)居(い)の(うち)あ(る)の(飲)喰(い)飲(い)喰(い)
 小(こ)登(のぼ)り(是)も(よ)と(の)採(と)り(ま)い(せ)と(虚)を(ほ)ら(す)と(芝)居(い)の(うち)あ(る)の(飲)喰(い)飲(い)喰(い)

ちての友方一度お出り双方よりしてと出は田舎互ひおすまを
擁^{おさ}あひ攘と見ひて二人の男が種^{ゆめ}の思ひ入を居化^{いけ}をうちあひ
勿^な地^ぢやまをまて漢月の糸^{いと}とるゆふ顔^{かほ}見合せて怖^{おそ}りし階^{かゝ}みれ
上のまきうり小階^{こゝ}子のより一度お落^お垂^たおすてま^まとあり思ひ
男^{おとこ}とまの男^{おとこ}が井戸^{いど}へ投^な色^{いろ}とさん小娘^{こぢやう}が度^{たび}へ狂^{くる}出^でるなどその男の
種^{ゆめ}さ思ひ入^いまの仕^しお実^まお懐^な後^ごよりとぞ
垂^おお小限^こらず各^おふともお女^お形^{かた}の女^おがめるとぞ

壬四月三日歌橋八幡の戦^{いくさ}を小段^{せうだん}を去^い士^しの中尾^{なご}後^ご某^あるもの利^り
根^ねの大河^{おほ}と申^まおとて頻^{しばしば}り小款^{せうけう}とお申^まおとて流^{なが}の手^ての方^{かた}よりして

友軍^{ともぐん}勢^{せい}の打^うおぬむランドセルへつとあまむ脊^せ中^{ちゆう}よりく胸^{むね}の
突^つ抜^ぬさうんと思^{おも}ひい小何^{せうな}のささるのみゆるさる思^{おも}ふ不思^ふ儀^ぎと
軍^{ぐん}志^しをひてランドセルと改^かめつとまは神^{かみ}伝^{でん}のちりて包^{つつ}と袋^{ふくろ}お波^{なみ}
のむ止^とりて在^ある思^{おも}ふ得^えお怖^{おそ}りうち發^はるさい袋^{ふくろ}の我^{われ}年^{とし}十六^{じゅうろく}ある
る小^{せう}よりお年^{とし}あると涼^{すず}く業^{わざ}ト知^し張^はの内^{うち}我^{われ}母^{はは}の信^{しん}せよとて兵^{へい}
さるありしが今^{いま}母^{はは}の加^か護^ご小^{せう}よりいぬら小^{せう}止^とまるるとて手^て傳^{でん}お家^{いえ}
へおそまへランドセルと信^{しん}さる思^{おも}ふ右^{みぎ}の相^あ傳^{でん}りとする言^{こと}を傳^{でん}お居^いて足^あ
せせしるを傳^{でん}とて愛^{あい}おある

壬四月二日下弦八幡の戦^{いくさ}を友軍^{ともぐん}あひく引揚^{ひきあ}て市川^{いちがわ}の

七十七新書一

十四

宿まで退きうらむ所とも引揚一舟の時の意の方へ性一舟
の川を航していふ及所の方へ渡らんと渡一舟へ大砲二つと移し人
救もこれへ色を赤く被方の居へ上りてとと後走をより透るるを
打換砲小大砲と船より上るるをきき由及子候小一人のこより去
手松の樹の蔭あるところを死りて川を隔て受あて替りて打あふ
うち後走一舟大砲二艘中隊の中より一人の壮士後砲をげすと
忽地小川へ飛入りけりうらむの及ふも皆しく溜まるとあす急流に
ともあらず徳と抱へぬ衆より行志げく飛來る玉のその中と潜
りの泳ぎの彼方へより彼の大背とまら船へ持る徳と借付て
再びけ方へ泳ぎ戻りけり方の居へ上りやうるや彼の長徳のをもと

持て力小まうせと是と子操小船のゆりけり方へ来る由及友軍勢
と色とんを交をていと背口と持て烈しくお然ととと怒り小船と
子操と各大砲二つと分たあうらむ又比較るき傷きありとそ人
と松渡せしとと

市川八岐の友軍の友堂彦伯と彦虎 稲田勢舟と後を
去すの将を身一大隊隊長の佐藤氏の子一是小隊隊長の人救
一ト小隊をうり加えるといふ

友軍方らうらむの薩士あや人の肉と二をの砲ふつけん喰と英
味さりのみどとて嘯し居るると空よりしが何とぞとと云わや

と信用せざるしがはらど若中天生る辺小屯あり居る歩云
隊のうち小て人の肉とをきり煮の中へ入ると意てあうく
又難子やき味づけるどふく喰うより人の隊とよんで
鬼隊とあそむその屯所のつと罷生つとつとを色保三法
小自己の妻とらうして肉と調理し食の餐愈小せよか
ど文勢といふあが余りの虫根など思ひし小今現在小ける
あまがこ玉の時代も初あじあや

○

小谷坂中へんあは幼稚き子のあそび居ると一人の武士を
り加りしがこの人肩小友軍の合と附るとを波子の武士の

かこまへに性あぢさんい友軍う上御とて附てあいでござうと云
とつふも自己い友軍ありと云まは彼の子がおぢさんが友軍
ある坊い合津どう坊小あまむとあ武士の笑ひあが何
小も子僧が合津ある後ふへ子僧の家いづくぞ性て由宣
しきやと問ふ坊のうちの壺を知らりといふとちて案内す
るの急彼武士の幼稚子の家小うけ方今とてとて性
り小是る子僧とまが小むい我の合津あり友軍あり
は後づといひよりけ子僧の何案あるとてとて家内めりの大
さ小あぢらさせやふあるとてとてとて彼武士亭と聞て
いふは等りのりとまも知はた小友軍とらり合津と云

のとをせ傍にせしる子借まで然りゆりのとせとせり今云
 四十年よりいふべき事かおのけおさかどけとどりゆ初推子
 のゆゑのせしめきすて天祐のゆゑのいゆとせまはせし優りお相の
 仇傍をどいふ事と以後いけりて免さぬぞと倭の刀をゆめり
 彼きむゆい出せ小家内ゆゆのい新えあせまをい通良つと
 ありと隣家の老吏ゆゆのがきり

此花新書第三輯

○

六月十四日より市井別々騒ぐくゆ城水のさゆつと
 橋とつ大砲ととる人墻壁のゆ用えみどあるゆ急高月初め
 より上州ゆゆ七集の氣分隊より法隊の玄士ゆゆひさゆゆの
 ういさるを是らのゆゆのゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
 ととるゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
 方ととるゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
 砲三度ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
 小や小砲のゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

きと度うちの指の辺で戦さうそ、まう砲をあゆく、いげく
 ううふとふひ市ちうの男女翁とりちとそび初雅とあひ老とら
 ちとひに降づく、森及小とと市田のこしと泥中とかなとた
 むと種とさうさぬ、小あそち、くい、と法方を、戦争とまう
 一とそそん上飛山のまう、一まん小砲とあり、度うちとそと
 所辺とそめと、い、とあゆ、小と火、い、出、大、五、の、ち、小、と、極、り
 ちのかり大砲の香ま、四方小、あつて、まうりり

山外法方戦争の場

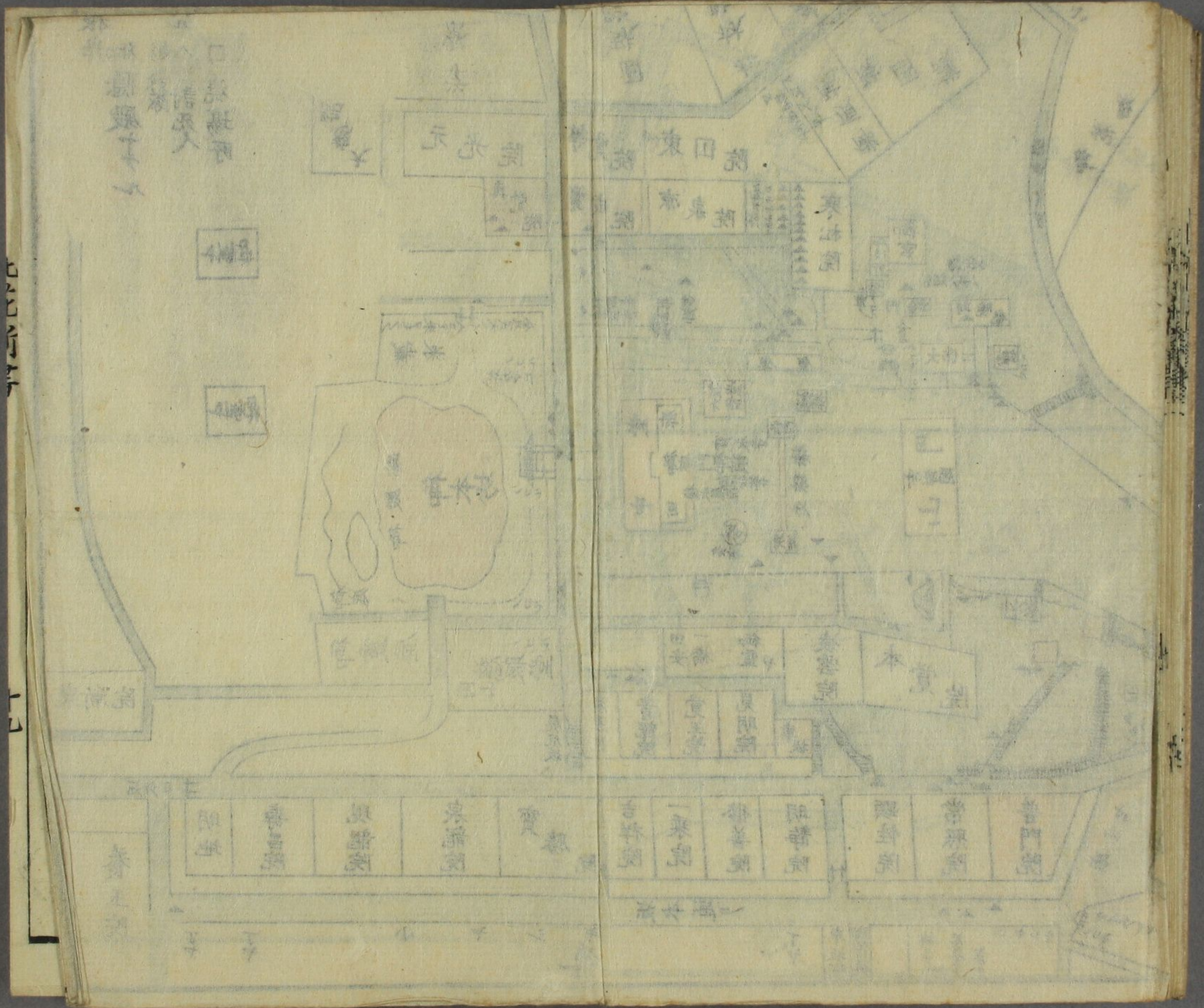
下谷の成屋あり 度小路 上野町六町と横丁辺
 和泉橋あり 二牧橋辺

せんまのや 二牧橋辺 あなぬのせのせんや 小橋失すおふ六ん

西町辺 度徳ちあり ぶざね町辺 坂井あり
 れのつち辺 根原山あり 草坂辺 日暮里あり
 根津どんぼ飯あり 日暮の辺 若手とち坂辺 三つち
 坂辺 三つちあり

吾妻橋の上飛山、い、が、の、と、士、廿、人、余、涉、と、と、ん、ち、ま、の
 ありありありありの辺、い、兵、高、を、ひ、す、小、矢、大、臣、い、ん、と、り
 花川、い、あ、が、ま、指、山、の、人、殺、あ、かり、ま、い、ら、く、い、れ、れ、ち
 殺、礼、せ、い、と、い、ん

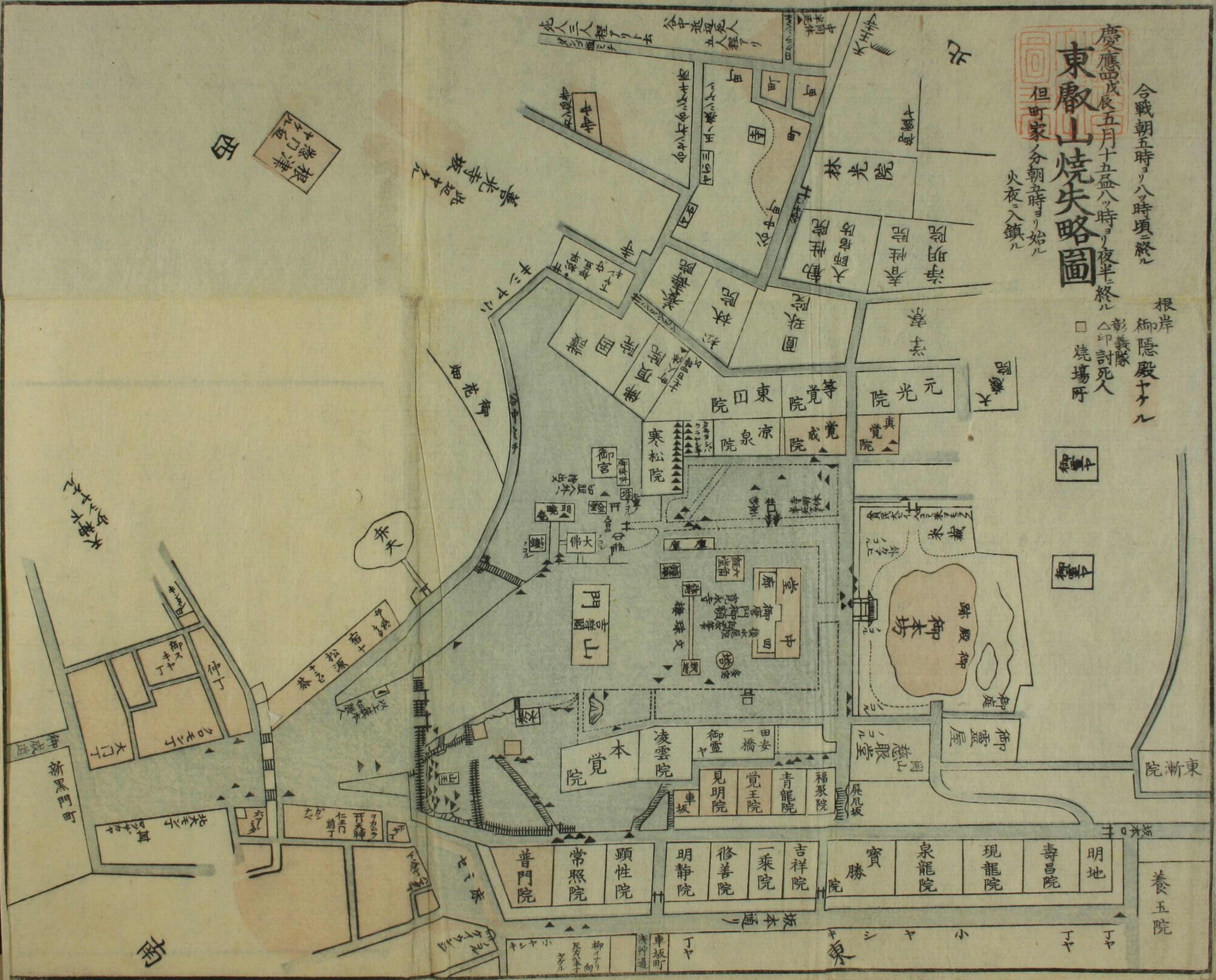
湯、い、天、津、ち、い、記、後、度、い、人、殺、あ、り、押、よ、せ、と、と、ち、集、集、の、勢
 あ、げ、さ、り、と、後、あ、ま、ち、小、兵、隊、坂、井、系、を、度、い、ま、い、之、採、い、れ、れ、の



東叡山焼失略圖

合戦朝五時ヨリ八時頃ニ終ル
慶應四戊辰五月十五益八時ヨリ夜半ニ終ル
但町家ノ分朝五時ヨリ始ル
火夜ニ入鎮ル

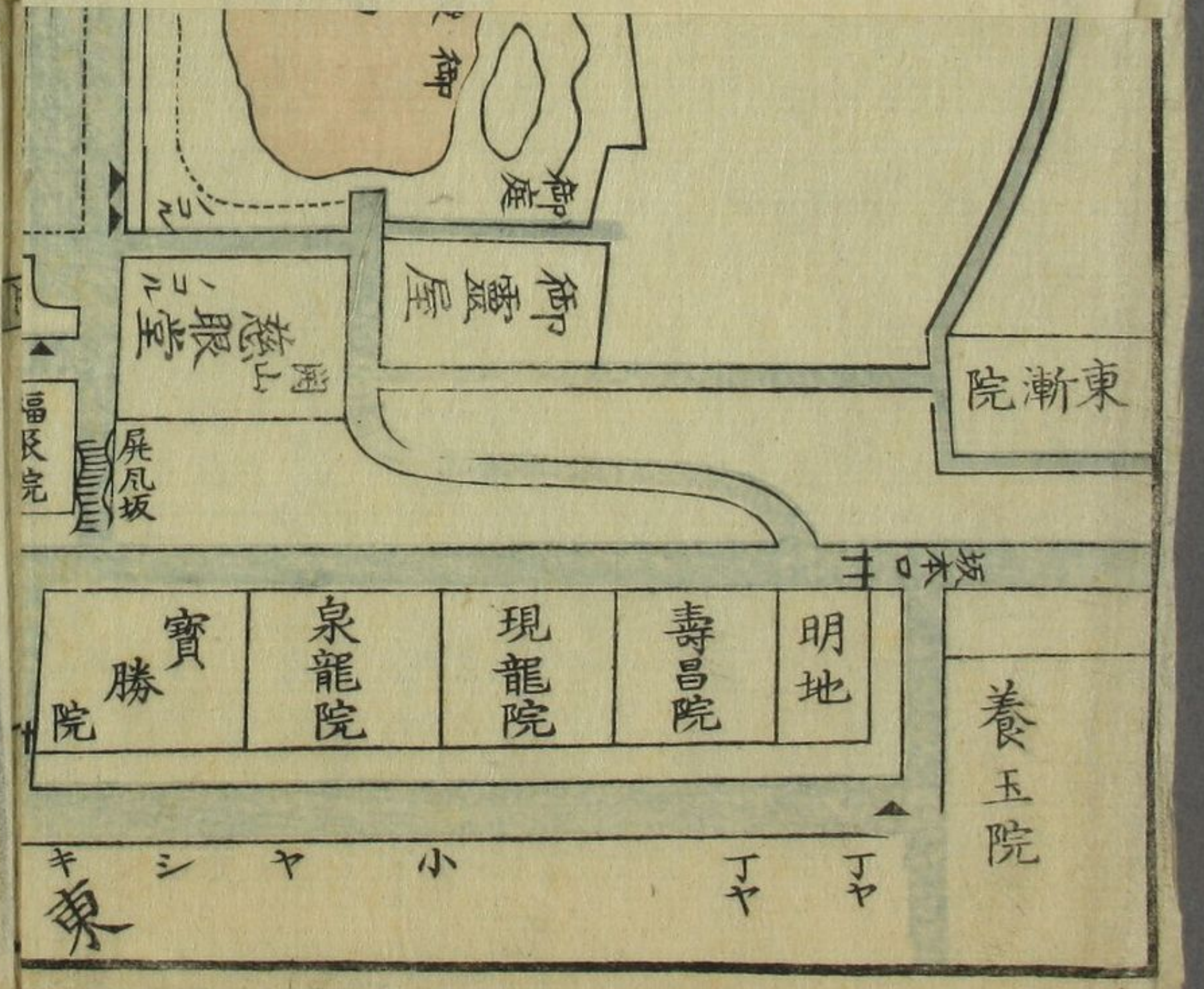
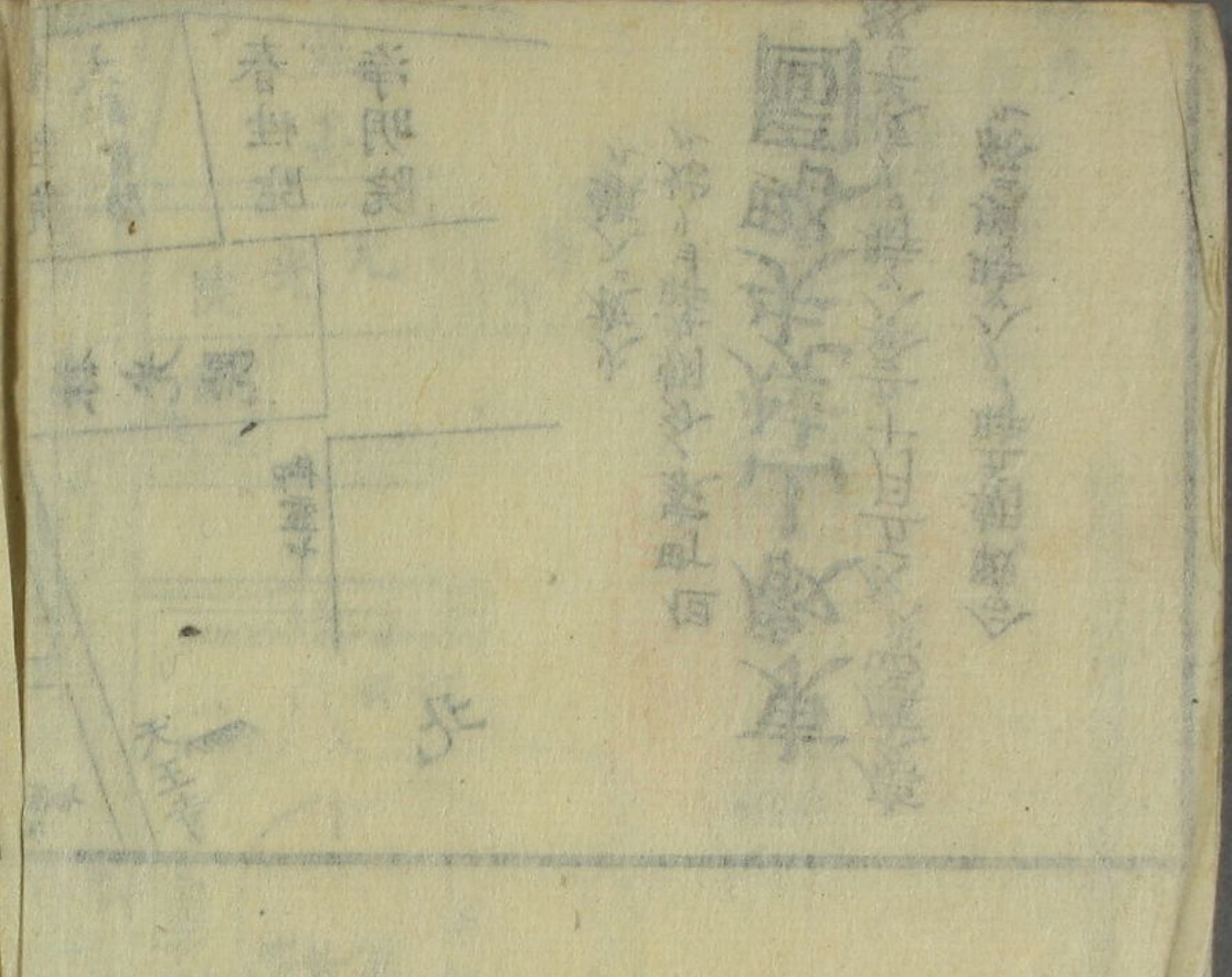
根岸
御隠殿ヤケル
彰義隊
△印討死人
□焼場所



55 60 65 70 75 80

丁卯丁卯

丁卯



多志屋より上州山内と打をせしり

多志屋大砲後多志屋場の揚布

柳原屋敷かや町上り

大砲二門

犯後屋人殺

犯前屋人殺

富山屋屋敷かや町上り

大砲四門

能後屋人殺

飯前屋

伊呂屋

人殺

佐古屋

尾呂屋

水戸屋屋敷七町町上り

大砲九門

この内不徳方へ心かき附ゆつてメとあり昌平橋より橋

何とせ橋の橋の上にお儀とほとある大砲とそより竹矢来と

おひんよきりともいいと屋敷の四圍あり

かえ砲をりよく烈しく友軍方付死におひのぐん攻りより

油ごいあつひの戸板までおてお屋敷の方へ引あげあるやうに

お集まらち死におひの上州山内へひき入るてい誠におおげと

大戦事ともあり友軍がおお屋敷とちあがり松原やう葉草い

ごをなまどの二階東がり下りおむむの二のふらどよりすきおもく

おとて又おつらめんおつらおのておより下り登りくおあられと

うちとておまお七集お隊のておとておとておとておとておとて

後山内へ進入るとおのて大軍大とておとておとておとておとて

二つより七集七隊のまけとらうと彼らととてあう兵隊小
 無援一とむ小むざんおあかりとてとて友軍方法子の人殺勢小
 破竹のどくろのまじりかち小まきとあやぶらと山門の方へとていさうす
 けめまん里つの方歩軍隊あまひ隊大砲隊もさうい破き進て
 此中坊の方へ引あうどく田忠友軍方より破れつとをたうけくす
 かとふ山内徳方へ火のあかり火息んあひくさうんおるまじり
 防禦のまのつと失ひ七集ま士とへんあて付知するのまじり
 さんとれとてとんをとりとて

十六日の記りの揃ふそ一紙ければ勝の牙にの毛もまらふ

此花新書第四輯

東慶山系頼院寛永寺の後水尾帝の物屋とて徳川三代
 頼宗公光公の遠警をり一着巻の天海慈眼大師とて寛永三年
 より同四年九月初めよりやうやうなりとてあつた海内無敵の大
 伽藍をいれどあまのいれやひ廣きあま山まきま成りせくり結つた
 是の新築の山まのの方ましくい破き一申せ二の巻山まの社
 大と一耐まきまるとりしうい山まのまきま成りせくり結つた
 極とあまして何とて後まきま成りせくり結つた
 各同まきまへんそ戦争あり居る兵士も殺せ教れしとて折る

三河崎のうへに麓のりーとふ

根津若光宮坂三浦坂巴の日暮里の方より押さるる
小川の水はこゝの森の間に住居ありおとといと一画の平水
とあり居る處のえさき付ぐとて案内初るる山兵三
折ふ溝をえさへおとち地ふ案内の友をさかすてて丸
のあく自空形はたひ不利とまひりといふ

十五音東嶽山(霞向)安東方西人数

- 麓お彦 長お彦 筑お彦 尾お彦 隊
- 登お彦 備お彦 岡お彦 紀後彦 隊
- 紀お彦 筑後彦 長根彦 大村彦

阿お彦

伊お彦

依お彦

新築田彦

上野山内(七集)隊名天略

- 親義隊 歩名隊八隊隊のり 砲兵隊
- 越勢隊 純右隊 中義隊 橋身隊
- 清氣隊松原のり 万字隊只世彦のり
- 松名隊松原のり 水心隊松原のり
- 井木隊井木のり 旭隊井木のり
- 附能隊 誠忠隊

空のまを知らざるの勢を以て記せば是れ不識なる隊も程あるべし
十音夜上飛の残を二下むきとて子令編者のつて派志一飛を山下

一ツ橋のつらり水をさしと
 水尾橋より水戸屋敷まで
 本郷寺堂神田の井の池
 駒込遊方より森川名通り也
 王子村より勝り川也
 平塚通り沼田村の池
 大川通り国母西人数
 大川橋
 紀伊屋西人数

大川橋

紀伊屋西人数

七十七年書目

三

東日橋場西国母の西人数

一ツ橋のつらり水をさしと
 水尾橋より水戸屋敷まで
 本郷寺堂神田の井の池
 駒込遊方より森川名通り也
 王子村より勝り川也
 平塚通り沼田村の池
 大川通り国母西人数
 大川橋
 紀伊屋西人数

今伝大はし

川口宿後一坊

戸田村宿一坊

岡州宿内入敷

大久保宿内入敷

備前宿内入敷

はる幾平末時の次より終り五時半時よりふより徳島地勢を
考へてしむ四つ半時終りより山を抜ゆ所は
官軍の陣より上野山内全く平定しこれより
三つ半時終り宿中に終りびつとも中絶せしむるに
二十里多しともえりていふ

上野山内全く平定しこれより

の地をめぐり長あきつるふらぬ宿付にあり

口を閉じしとて宿に宿をすつ討死せしとていふ

○ 國の爲に死せしむる者多しとていふ

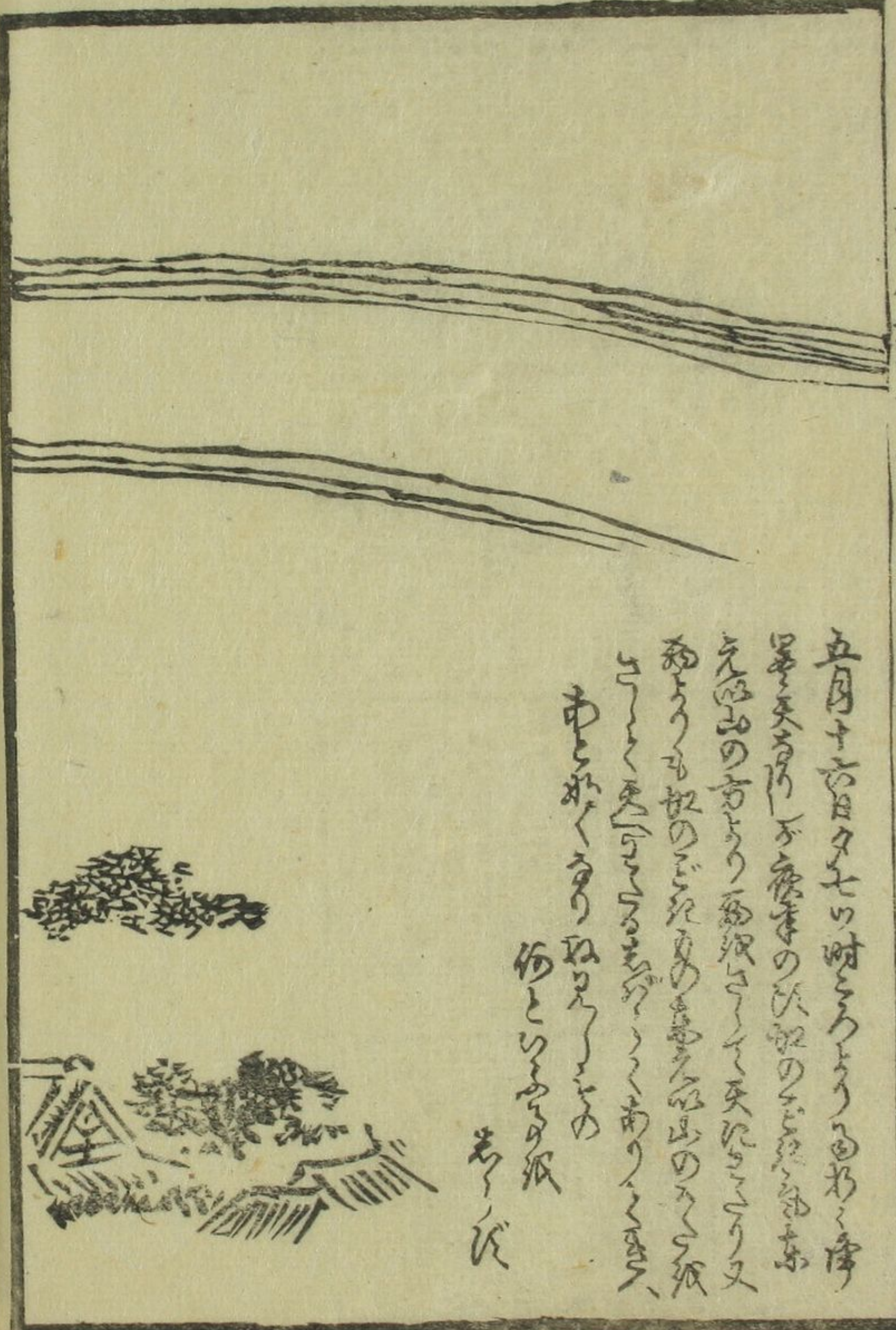
山の前に切ぐる首の鬘の毛と結び合を纏へるは
あまの肩のあまのけし合を合ふまきつて
死する人あり

三田院宿外本隊

十七集 中村徳三郎

是の月清丸親善の故に合を合ふ然るに
後切丸たる人の徳中より

五月十六日夕七時の時より雨あり
 曇り天あり 不夜城の次郎のふたはる東
 えい山のふもとに雨沢とて天にさしり又
 ぬるもぬのふたはるのふたはるのふたはる
 とてくまのふたはるのふたはるのふたはる
 中とぬくまのぬるのふたはる
 何とりのふたはる
 ぬるのふたはる



か石川信忠
 うららのふたはる
 こころのふたはるの

是



光るりやうんる留り流るもやうり

彰義隊水原隊

海防隊を弁

右の如きものぞくはめとてありしり

中谷金新河 齋藤重隆の和為上野山内の花がんと行づき
信濃に於て夜中火殺する如すも其心免罪とてふあり廿四日夕
一の陣ころより山内の実地不仕ありて其時一刺殺も亦あり
蘇もりたりと出りは又其のち地も上野討死の人の為
有徳の町人をも殺さるるの事供書に今よりありて流るる

十六日より官軍方市中巡邏別々をひきよめ思ひ
も集り居る者も其後を以て其集り知是はと云ふ
合屯西六本下深川麻布赤坂白山築地忍々都立八ヶ所
をりしと上野も集り兵應援をせんといふれと云ふ
さるふり教札してりし知是はと云ふ

十六日上野に國後村宛書も亦在深川居る保科屋
の人数三千人余の西へ軍隊臨み人際谷素多木素多と隊長
のよりして十九人の若輩おへんの幾卒に瓦解して本交はあ
るも其の居りしが元後村に林彦と深川よりて友軍同

婦がさへもて候をい詠家某府出巡討のありけり林彦のこの
 陣屋清高村某員剛のあふ成自燒一棧惣詠のりのを引
 けは相おすこほし候様ある保料度あつらふとわけて居るに
 右をい詠家の十九人夜九の時より始るの陣屋に候へば飯
 同村の惣をもちよふ事候陣屋を仰保料度の人数はあつ
 ころとらふふ言ふ記つて討入りし保料度の人数はあつ
 能く討入りし七人おせりび飯所の陣屋に引あげたるより
 母を詠家も老も候やもおせりやとめばおふ事候(おら
 来り候や)とていひたる飯所は陣屋保料家より討入りの
 事とんと候やとて候やとて討入り候やとていひたるとて

物とて十八日ゆり事候はと人の若きものと候今より飯
 所兵隊屋(夜討するやどお候とてたふの)三行玉の来りたる
 兵隊屋のあつらふとて候波の夢をあげ候とて味方の威をまゝ一歌の
 雲氣をうくくもの及候おせぬやうに候おとありたる若き兵隊屋
 ありしと六天持舟給ふと候持舟一やの詠家の人の持よりその
 夜四の時ころふり飯所は陣屋とていひし候とて飯のを
 くまひとて候の詠家の老い候とて候とていひたり候飯の若
 のの遠くへく家へゆりし母を詠家も老い飯野へ候とて若
 老とていひ候やとていひ候とていひ候とていひ候とていひ候とて
 若き日の候やとていひ候とていひ候とていひ候とていひ候とて

此花新書四

東

六

知事はふりくちとぞ

○

六月十六日上野城幸のまゝに
 親軍が漆子色集り居る
 親軍を士振武隊のりぐらふ七十八人の親軍は上野山の親軍
 とんがり圍の辺に親軍集り上野城の親軍をたぶれ
 外親軍あまひ隊などの親軍あひくそ人殺忽地をせり
 田舎小島とて破放をひきまきめし人殺忽地をせり
 ちりみ百りう余人などあつた親軍をたぶれし
 考ふる親隊のりぐらふ小勢ひつた要官のりた地あり
 来る友軍と下りきりておのり上野の山あて破りし

十がんと親方の要地とてしりし
 是とて六月廿日田舎と引さう
 營とて定めしり

版部の武義のまゝに
 久留里侯の著る
 官長とて若石をいへ
 友軍方とのりきり

友軍方とのりきり追討役は
 友軍の大軍は橋井尾瀬あり

と多し者跡とありたり

後をよかるといふ大砲二丁もあつたあつた町屋への大砲
上りともうとて居る家小本背まで指へりしと指へりし結に人
はへりしといふ

廿日夜銃をよせるといふ町屋小陣より友軍方へ夜付
たつといふ一丁の中を走り回り押出へりといふ町屋
の町屋隊よりたつといふ歩を隊のよりとて表の方へたつといふ町屋
におつた戦軍もたつといふ大砲小砲の音あびさる中の中の混へん
沸がぬく友軍方銃をよせるといふ町屋より死をふむといふ

前夜の方より押出へりといふ歩を隊の案内よりとて町の筋

勢い水沓因糸とつらつらといふの身子二人とつて是はとておつた町屋の
難をよせるといふ根をよせるといふ町屋の町屋の方へたつといふ町屋の
たつといふとつておつた町屋の町屋の方へたつといふ町屋の町屋の方へ
らんとおつた町屋の町屋の方へたつといふ町屋の町屋の方へたつといふ
の町屋の方へたつといふ町屋の方へたつといふ町屋の方へたつといふ
とつた町屋の方へたつといふ町屋の方へたつといふ町屋の方へたつといふ
つた町屋の方へたつといふ町屋の方へたつといふ町屋の方へたつといふ
へたつといふ町屋の方へたつといふ町屋の方へたつといふ町屋の方へ
あつたといふ

廿三日の方より流し水の友軍方出勢といふ町屋の方へたつといふ

まさ大能小流とぬておさるくするがど不脱走まよカと防
 致すにぐるる夜多しが殺敵の機をよまきち不脱仁寺を
 火の儀方より指りたまふも集ままよ不脱は四方より
 此の儀方より指りたまふも集ままよ不脱は四方より
 歩破らる隊喜の討死にまよはるるがど殺敵せしむる
 夜より廿三日午時ありまよの殺敵ありとのふ
 版無の跡を月本三の事ありまよはるるがど殺敵せしむる
 弾薬とうをまよはるるがど殺敵せしむる

只とてあると能へずあどくはる人知まよはるとのふ
 まよ殺隊の人殺一大隊不脱版無より二里不脱とまよはるる
 ところふよまよとて殺敵せしむるがど殺敵せしむる
 橋渡の陣のわらう殺敵の子を中一寺のうちに不脱
 居るとのふ

六月九日甲府より来状の抜書

六月三日林昌と助修の部をいふと隊長と久甲島を
 惣勢三百余人をいふと押す甲府北城代沼澤原と
 不脱あり候まよの小田原のが又引揚甲府へ

尾丸 成瀬彦人殺 凡四百人

濃呂	高頂屋人殺	凡貳百人
日	黒村屋人殺	凡百五十人
志呂	掛川屋人殺	凡四百人
日	淡松屋人殺	凡二百五十人
弦呂	高志屋人殺	凡百五十人
日	強防屋人殺	凡百六十人
日	松代屋人殺	凡百五十人
肥後	参孫方人殺	凡四十人
水汲代	沼澤屋人殺	凡八百人余

右の小人殺由は圓ゆ小お取はし

甲府初由は此族本二百部余を外此家人と力日人余勢近
 此初段柳系採り此暇小お成来凡六百七十人當りあぶんと
 珍ら凡は戸表人強防り此根在作付此月強勤手紙小
 吾難くは
 立之家去勢 吾建具を外賣りののこ由て買人去人由
 此此屋
 此族中此家人小勢強与力日人想メ家殺之予余勢不強
 昨日強呂強より甲新強勢六下希り戦後海辺之買来抗
 走去不云子お強いこの強強を去くは希りおん此初段表名取
 不ど此去とあて此殺向と中此子不此強は

山口



此山



東

○
林昌と物守屋八郎次郎の役走を甲斐黒駒宿を以て
かへし小田原の城を来りしところ小田原を度々渡りて一橋を
ら平敵小豆島目々根山小ひきこりて居る事

大抵督府より社作出は出付らう

大久保加賀守林昌と物守屋八郎次郎は城を度々渡りて一橋を
中弁能小豆島目々切害三雲為一舟を逃返しに度々罪を犯さず
空宿候へし同罪し少は招白いなり

五月廿五日

五月廿五日小田原慶老長尾川右衛門左衛門代を以て

友軍方ゆむとくに出張し且款款の義法がひ出いなり

伴呂原長尾侯及び侯周呂侯の人殺あゆく小田原城下を
操り小豆島小田原軍勢先陣とて湯元辺まで押寄せし

ところ候走を友軍小田原小せめせせると安彦接を為んと
目々根山を立つて石橋山まで出張せし小友軍先せん小田原侯

の人殺と白きあひ若根湯元三まの橋湯元を度々へん小大合戦と
ありた刀うら陰入とて烈敵双たうの討死をひひつとも多く

候走をあゆく操り小ひき揚らの戦争を度々つたり夕六時
ごろ小おりの候走を廿七日小豆島熱海村より網代へ

乗船して何れへし候との人

六月朔日、新根山湯元、石の性、東本三が、其の平をつけ、
 死骸まで首を三羽が、みど六つ七つ、そのま、倒れ、ありしとて
 修、庭八、卯の世、小、受、え、る、武、南、力、の、土、る、し、が、日、接、戦、り、
 大、勢、小、わ、こ、ま、ま、左、の、も、右、の、肩、先、を、切、ま、ま、た、後、と、う、ち
 接、と、ま、ま、と、六、の、腕、を、大、刀、を、打、つ、つ、ひ、小、多、勢、を、切、ぬ、け、
 行、方、を、ま、ま、小、ま、り、と、ま、ま、の、の、の、天、物、あり、と、矢、物、
 出、て、ま、ま、と、ま、ま、と、ま、ま、と、ま、ま、と、ま、ま、と、ま、ま、と、ま、ま、
 と、ま、ま、と、ま、ま、と、ま、ま、と、ま、ま、と、ま、ま、と、ま、ま、と、ま、ま、
 と、ま、ま、と、ま、ま、と、ま、ま、と、ま、ま、と、ま、ま、と、ま、ま、と、ま、ま、

此花新書第六輯

六月廿七日、伊豆の志、お、浦、より、安、房、の、志、へ、お、け、こ、ま、ま、
 林、間、を、馳、走、り、ま、ま、と、ま、ま、と、ま、ま、と、ま、ま、と、ま、ま、と、ま、ま、
 親、藩、ら、い、ま、ま、と、ま、ま、と、ま、ま、と、ま、ま、と、ま、ま、と、ま、ま、
 東、軍、艦、の、も、ま、ま、と、ま、ま、と、ま、ま、と、ま、ま、と、ま、ま、と、ま、ま、
 控、走、り、て、月、は、鏡、山、本、日、ま、ま、と、ま、ま、と、ま、ま、と、ま、ま、と、ま、ま、
 お、ま、ま、と、ま、ま、と、ま、ま、と、ま、ま、と、ま、ま、と、ま、ま、と、ま、ま、
 味、と、ま、ま、と、ま、ま、と、ま、ま、と、ま、ま、と、ま、ま、と、ま、ま、と、ま、ま、
 九、つ、と、ま、ま、と、ま、ま、と、ま、ま、と、ま、ま、と、ま、ま、と、ま、ま、と、ま、ま、

友軍が宿陣あるをりとき友軍が法隊へむけを渡り
 づうおびびり大村より折川より佐治ある
 人殺すド小出強陣とつとけかの賊船よりかざらん
 法隊より大砲よりちりちりしる鏡走船よりへん小出
 ありてぬのぶくちるるのこゆ友軍方よりこれとて
 砲をめす人殺すひきあげて上陸させるとし小出
 とまうし小出鏡走船よりとて知りしやハッセンとて
 そのまらと出帆し岩城のかへ退船し平井の渡り
 ニその船の鏡走らひひさ上陸しとてあは長崎の
 鏡走らひ上陸せむとて平井よりかへ聖十九日

あつたときさう陸地より船とせを船ニをうつつていひや
 とち小出船よりつて波よりちりちりしる鏡走船より友軍
 かが小出すいよとて落れり折川より佐治ある大村と
 の人殺すとの海ゆへをせむとて小出とつて友軍よりす
 まるち打とてさう小出のちまらぬげぬりち船より大
 ろうと船十をの打かけししがさうぐりかづとて友軍ひん
 ド小出と出帆あり
 一鏡走の船は長き此ありあらず折川沖より長崎丸が
 長き此丸のゆくへひとの乗乗りのせうとてえさく不いで
 ひろかふせむるありとていづまらむせありや

ろがきと九八ふさび平かごと出帆ありきたる上陸ありとる二をう
 の人こらげ中をさあひらる月勢と一ッあり岩城野平の城の
 安成野三弟う落士らが援えとん仙臺せいの津せいの
 ざい彰軍の隊純義隊あり佐藤の役そらげひがそこりり
 平の依(おち)あきそ是らのりのどのと合えあーやもすれが
 友ん小拒拒して逆威をどこう不くまきうすふより友軍
 方小もあーかまがとく是らのりのともと保成あきんと六月廿
 八日の早夫より植田口のかさうの柳川より佐藤平兵衛國助の人殺
 彩田さくをむひ実田宿をさうの依あさう薩兵と大和
 族の人殺一ど、さち平泉の本營へせあかりとるふらあとも(母

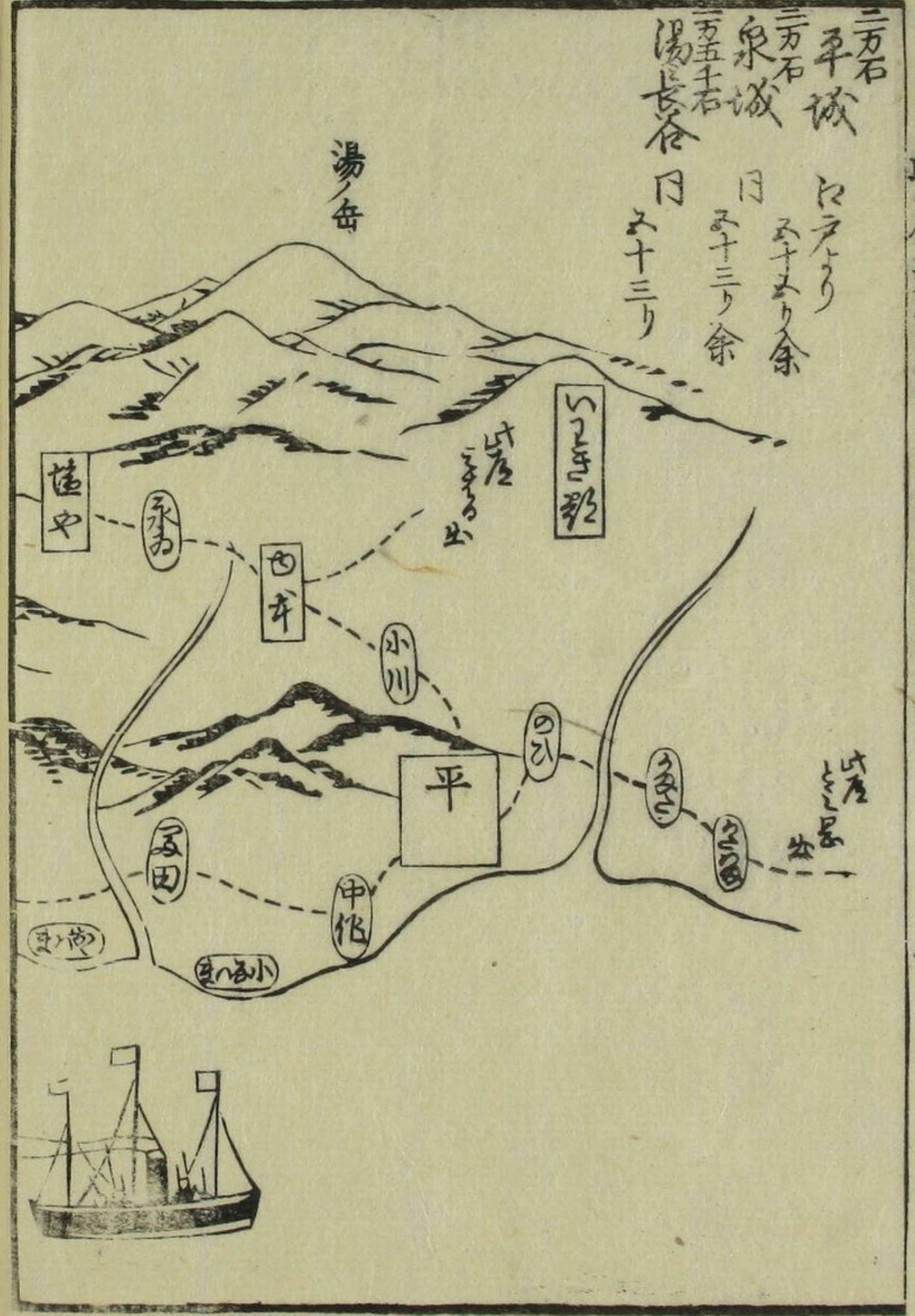
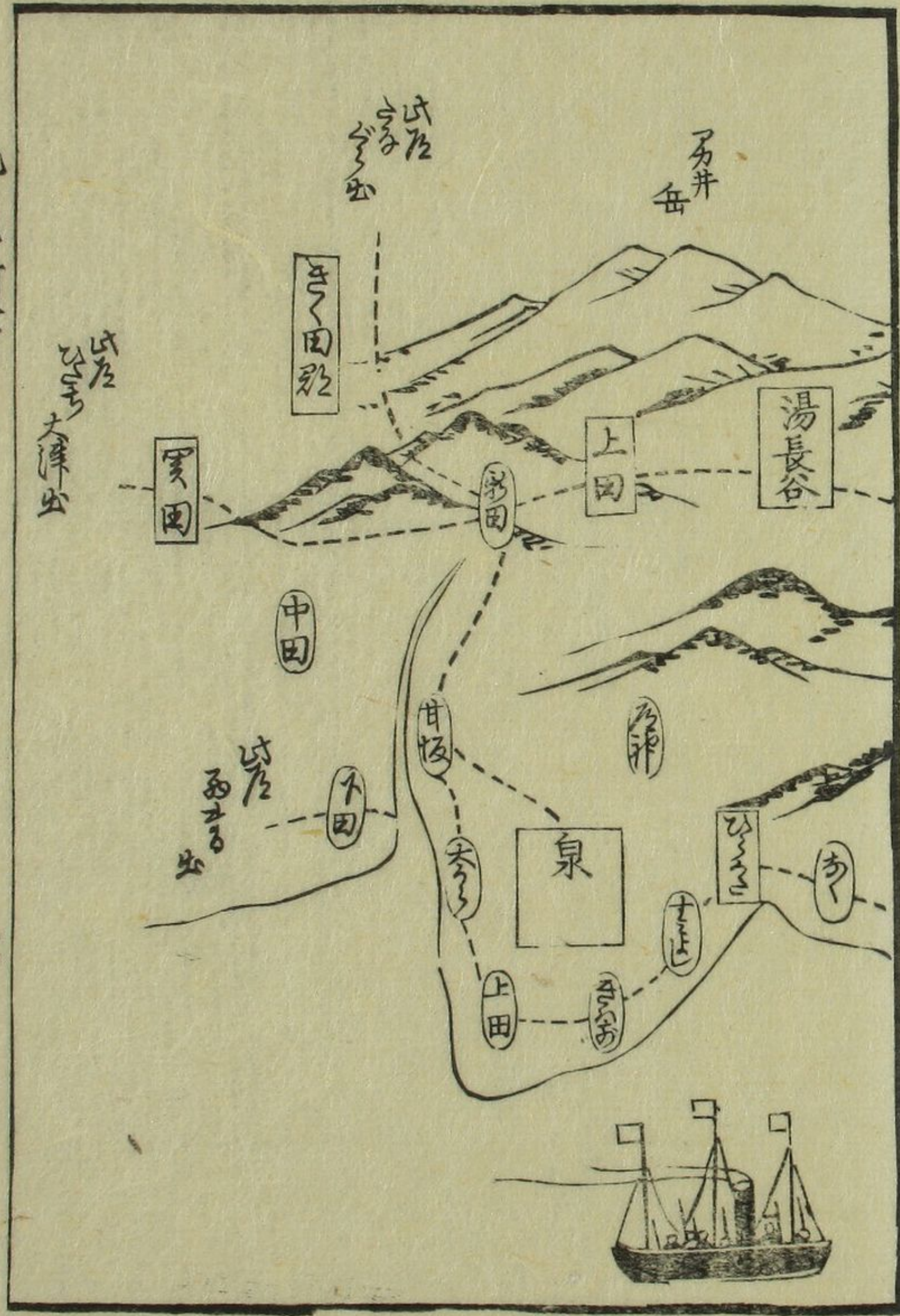
官あきぬりん城らうせきがとやあひん城将本多能忠吉の馬
 士そのり仙臺勢中村勢純義隊章義隊の援えとるそと
 しし西義孝子の友軍あきやうり文治小流とらうけそ一り
 小とせあつけふ城まもかく中をかてわらぶとあきとあきわかれ
 のかげよりて友軍死力をほしけとるをりさうさ友軍あき
 まさそとらうりふぞ依あ族の去隊より未末友をあつて
 存ちの河村勢と中本あねまじ血あさんの子とる
 ひくあくとらうりく、まらえんふすこいねうよのまきすとの
 ともせひあらひの援えあひの槍戦りともあきとせあよせ
 けとる薩兵とらうの去隊より未末友捕梶山すま果親五親

一由永田表去清種子清長を清るどいそく余不おとらん
 やととびまゝとむせひまゝりくし道のりやうんと近整ふすふぞ
 城去りまゝとむせひまゝりくし道のりやうんと近整ふすふぞ
 疑きとて法方の入殺と一手おまゝと成門の北口より一どふざつと
 打ていてあうひらさうひあうひらり平のかえあうせり
 さそ由植田より新田のかえとせむひら新田植田依去系彦周
 必さうの入殺新田板まですゝゝとて仙居勢おる勢様と
 新井隊尾勢隊の入殺あふ山よふ系彦とかま入殺をよゝうら
 わらさんと火ぶとて切てあうひらさうひあうひらり平のかえあうせり
 とてさうり海屋すち板の正面よりい依去系とて大砲隊柳川と

後士隊を一隊三小とて引るを怒一山のたふさうの依去系彦
 小流とい柳川口より後士とて冬を文一小とい新井一少といとひいて
 おさとし山のたふさうの依去系とて小志う隊柳川とて後士石川と
 右ら二小といとひいてあうひらり法方一時おせあかり大砲おづと打と
 うちとてあうひらさうひあうひらり平のかえあうせり
 志願ご隊のふせいも経本とてとりきりてあうひらり平のかえあうせり
 本うげへととてかくし七後というちあふさんとすの由系あひのかりていあひ
 あうさまおひあうさまおひあひうらとてさうりきつたぶもあうさまおひ
 かくていさととて及軍方とてまちとてあへとかくてりて法方のせいを
 ひさまとて海屋板のまうめんへととてあうとてあうとてあうとてあうとて

ふきまろく四方のふきまろくはくぬんどおまをせめのがとびふしより
 も大砲被れりまこ小流のまきひあくらをせんどうちあませがその
 ひきあびをしく百ふのりづちの落かりるどくゆたまが小流を
 折川せい依去来路の路よふえらま定勢すし一いりぬきすいぬ
 そうそいんとええさうさう人衆のええむひる薩長がこれ
 きまふ小流をえんあへん山のる屋とまこゆのりこよりひたさふ
 のり思ひひるるねるせいの中隊めがけてらあひまきまが城をこれ
 おへきまきしとまどたもそあんとまあなり薩長がへおかれ
 どいめんよりせいのりの友軍らとふ久とあり我まらまきとせあ上
 まが欲しがくや思ひん城落ちまきちまをまとも陰謀とすまき

日まの平のかえおら田まきさる田友軍がこおも長あひせが味さるの
 おひ付いぬやまきさかどうみどとうまきし付まの首をわらんすら
 日い面ふおむけむけむけのさうず新田ふ富んあり内ねらぬのを
 ぐんと流す一どう決まきせり
 日まが九日の曉夫おまの泉の城とのかたりそのとらふ不宿
 隊ありさる薩長は人殺大村と人づかまのりさひとぬるさ
 しんは隊の人ずのさまきかきさちお平の城とさうんと懸むわの
 敵をまきまきしと殺門の大砲とまらまらおひをせすておは友軍が
 おすまきしとら平の城の中よりゆいせい米沢せん中村せんや
 くららぶらまきしとまふあて友軍まきまららとんと殺門とせ



かゝる火ぶらとてさるちくとおまらうに兵隊さうのまゝいりぬる山の上
 ぶく木まきとてさるちくとおまらうに兵隊さうのまゝいりぬる山の上
 友ん大村せいのまや川をさまで押つめて仙ざいせいのふりより大砲
 破まきとてさるちくとおまらうに兵隊さうのまゝいりぬる山の上
 うちのうへに隊さうれが後隊すとあひいり二まうのあひいり援をた
 うりあまきとてさるちくとおまらうに兵隊さうのまゝいりぬる山の上
 せんより卑く海軍のかえりいりいり小川せうとてさるちくとおまらうに
 勢のよきとてさるちくとおまらうに兵隊さうのまゝいりぬる山の上
 ちうと筒のすぢちとてさるちくとおまらうに兵隊さうのまゝいりぬる山の上
 仙ざいせいのと米さの勢の力をさうけりて双方とも激戦すとてさるちくとおまらうに
 兵隊さうのまゝいりぬる山の上

砲隊よのふまおまらうに兵隊さうのまゝいりぬる山の上
 よろよと城さの後はとてさるちくとおまらうに兵隊さうのまゝいりぬる山の上
 おひめくまびく進軍さうよりさるちくとおまらうに兵隊さうのまゝいりぬる山の上
 かくすおまらうに兵隊さうのまゝいりぬる山の上
 ちふさわかまらうのまゝいりぬる山の上
 さる勢さうの砲隊さうのまゝいりぬる山の上
 一ふさわかまらうのまゝいりぬる山の上
 砲隊よのふまおまらうに兵隊さうのまゝいりぬる山の上
 ちふさわかまらうのまゝいりぬる山の上
 さる勢さうの砲隊さうのまゝいりぬる山の上
 一ふさわかまらうのまゝいりぬる山の上

村ざのびるぐんは大隊をばあそくくは砲臺のあひだより日さすか
 下かくてふまきとひまきあぐり大砲をすうぐらうちうけこれと敵とうこりま
 ドまきの敵とうふまき味方のせいとあまうりちよもあそくくと思
 ふあそきのあそくあや長湯丸の砲とあそくあそくあそくあそくあそく
 お城砲台がさうさうあそくあそくあそくあそくあそくあそくあそく
 ようまきと小銃とうちうけりしあそくあそくあそくあそくあそくあそく
 勢は去来せいのあそくあそくあそくあそくあそくあそくあそくあそく
 トりあそくのあそくあそくあそくあそくあそくあそくあそくあそく
 とあそくあそくあそくあそくあそくあそくあそくあそくあそく

此花新書第七輯

さても新田小宿陣の依あそくあそくあそくあそくあそくあそくあそくあそく
 六月廿九日の拂曉日あそくあそくあそくあそくあそくあそくあそくあそく
 湯長右の陣あそくあそくあそくあそくあそくあそくあそくあそくあそく
 してそのあそくあそくあそくあそくあそくあそくあそくあそくあそく
 援えたりとあそくあそくあそくあそくあそくあそくあそくあそくあそく
 るあそくあそくあそくあそくあそくあそくあそくあそくあそくあそく
 ぐじとあそくあそくあそくあそくあそくあそくあそくあそくあそく
 うちうけんとあそくあそくあそくあそくあそくあそくあそくあそくあそく

そや^{せん}殿^{せん}そりのそだまりくらう家屋へんおありあきくらうお龍^{りゅう}をさう
ろくろとくちあつてりごんねんと^ひ後^ごおせの^{さど}依^い去^そ原^{げん}の^せ折^せ川^{せん}の^せ
りさきとふと隊^{たい}をすめ大^{だい}事^じかづめてじより大^{だい}やう^{やく}被^はまらせ
ろちうけくいとゆえげくせめけけりまの月^{つき}を^せの守^{まも}り^せの
さまぞう督^{とく}後^ごそう^{ぜい}も^ぶぞの^かげより^背さ^{きに}とそ^うへて^ま
しげ^びおら^しや^まの^くち^から^りの^お小^せ隊^{たい}を^ひら^かり^んで^し
おら^しや^まの^くち^から^りの^お小^せ隊^{たい}を^ひら^かり^んで^し
十^じ段^{だん}の^りく^さふ^るあ^まし^てる^後そ^うを^ゆ急^{きう}大^{だい}やう^{やく}被^はま^らす^の
も^お耳^{みみ}あ^をと^れば^いく^ちも^おも^いず^物證^{ぶつてい}の^かげ^もあ^らう^とす^まば^こ
ち^まし^らう^{せん}で^おお^まり^扱ま^した^おち^るよ^しと^いん^どば^まま^いふ^いか

ましまつてラッパのとまのひびきあり^{へん}じ^む夜^よ化^け志^しの^いま^をて^し
け^まい^びさ^しの^強ある^友ぞん^勢も^先ぞん^すて^いく^ちあ^らや^ま
さ^ます^ても^かひ^てぞ^んえ^らと^らう^湯長^{なが}右^{みぎ}の^は兵^{へい}士^しの^らち
お友^{とも}ぞん^へと^いと^砲と^むん^とと^おを^まさ^をう^りお^らり^のあり
け^まい^びか^ひて^行志^しの^のし^をし^あれ^せあ^のま^が圍^{かき}め^の持^{もち}口^{ぐち}を
ひ^らいて^砲と^あら^うが^友ぞん^とら^まち^のお^らり^一貫^{くわん}
おす^しら^り二^に三^の本^{ほん}戸^とを^おわ^ぶつ^てそ^のや^をあ^らま^へせ^あ入^いり^こ
ま^ま湯^ゆ長^{なが}右^{みぎ}の^は兵^{へい}士^しの^は防^{ぼう}が^まの^まが^ごと^あく
扱^あま^のラ^ッパ^のと^まの^らち^お兵^{へい}方^{かた}の^人扱^あと^ひき^まし^らう^あに^まら^しま^る
の^らち^あ扱^あま^の友^{とも}ぞん^も長^{なが}あ^ひせ^ば勝^{かち}つ^て揚^{あげ}つ^て勝^{かち}つ^て後^ご

降さんさる付りの人ずんごうのおまじりあふ日ひこよ
宿んすうとど

こまきこ安島村のこまよりすこまの薩品ざい大村せいの中の化
の跡ませあいちじるあやあより小款ありやと四方へそつて
んさくする小款のあざいおつあだある船中をまびこあや一
けまばかの船めがけてふ六むつ小背せうちうけつんさるとま
ちこつて城境に人船中よりあつるまじりてざんド意絶るま
しうどかみりともあひんたをうふありて海へび入りつちと
もあくふげうせうりままびやうや款まき由急は日ひこあて
ませとあ小名をぬ村めぞ宿陸りなる

のまきこ七月朔日未明のこまより 整判のち較わびとく款
のまつこまうはふどあてびやう林のさあぬち平の城とま
あぶらんこ薩品さう人救危ふふ大村さう人救危ふふま
ふどさうちふ平へあやせんこ小名をぬとん軍あや小議
甲よりゆ人救りごま田のうちのそりこまあふとをたせ
小どと小より 揚ま小隊どとせよせよあをくまはさう薩品
せいの小名をぬの中たよりあかり大村せいのふあんのふたさ
より進んあませいでふをづきりまははせの小説をぬ
らちうけふととせあせ友軍より 救いの砲車とあすふ
きり小波まのそあかりとまびこのまあ田のうちふひつて泥

勇秀月仲春など力戦せんがし大村せいのち山親龍秀
 宗系強造松原會棟浪江一糸福田元次弁と雨カセ
 ありんせんがうり佐手一とうまづくとくうびきあて小名
 ちぬの本屋まきでぞひきあげたる
 さまの濱海尾のさ友軍強ぜい平かざらぐと新田小名を友
 とう小名どんと強さうのしあせ月内小平の城とせするん
 かつてあまよのまきとをまきし味このゆうとをあとすふら
 んとおのく陣をいとかくまうりまづらく休軍とありければ
 城まよまきまづりふらとすこの七八日ありちく小後やうの
 ちとえらうとくう薩カセとりの陣まよまらちりのふりのより

しんちうしんまらうの月意と平さうのちち走懸村のかとら七
 本松とまうすともく職まき産場とまづまてりて百五十八
 ちりふんわかちり友軍まよくの陣まよとあそいんとするす
 すありと終りまきとすてあてきりのみあまづと薩カセと
 作候とありび小一友と小名を友の陣をいとすりいじ由
 代村より七本松の正めんへかかりたり七本松の産場ま
 とまづり勢さうそり勢りらう百五余人ふてかまあちまきん
 とうと集めんとすらうち月十日の曉天小友軍とまよくも
 初とせらるる人まづまきとるま産場より大砲小づを急まゆも
 むく取のてくふらちまきとまづり薩カセとりの人殺すりもあまが

すいやとくごちまち四方へ^{ちち}ちちなり^{ちち} 春曉がうせんあさる
 小平せいのりつらんすまが^{ちち}をまきおし^{ちち}とあふ^{ちち}あるあかき
 ませいのそのひまおえより小せいのりあれば^{ちち}をやく^{ちち}人救を^{ちち}討ま^{ちち}あ
 八差村ま^{ちち}んひま^{ちち}あが^{ちち}り^{ちち}のり^{ちち}湯^{ちち}あ^{ちち}や^{ちち}ある^{ちち}ま^{ちち}る^{ちち}とう^{ちち}年^{ちち}あ^{ちち}へ
 ちちえ^{ちち}ん^{ちち}ま^{ちち}ん^{ちち}小^{ちち}勢^{ちち}の^{ちち}味^{ちち}を^{ちち}故^{ちち}地^{ちち}お^{ちち}お^{ちち}す^{ちち}ん^{ちち}ら^{ちち}う^{ちち}い^{ちち}あ^{ちち}る^{ちち}ん^{ちち}へ
 ら^{ちち}が^{ちち}と^{ちち}ち^{ちち}ち^{ちち}小^{ちち}平^{ちち}の^{ちち}人^{ちち}救^{ちち}を^{ちち}ら^{ちち}り^{ちち}出^{ちち}し^{ちち}山^{ちち}を^{ちち}す^{ちち}り^{ちち}る^{ちち}屋^{ちち}を^{ちち}あ^{ちち}
 め^{ちち}り^{ちち}八^{ちち}差^{ちち}村^{ちち}の^{ちち}人^{ちち}救^{ちち}と^{ちち}一^{ちち}年^{ちち}小^{ちち}あり^{ちち}機^{ちち}を^{ちち}ま^{ちち}き^{ちち}ら^{ちち}う^{ちち}ち^{ちち}と^{ちち}ん^{ちち}と^{ちち}差^{ちち}
 傷^{ちち}をか^{ちち}ま^{ちち}へ^{ちち}ま^{ちち}ち^{ちち}う^{ちち}ひ^{ちち}り^{ちち}

